

## SEANET 2008 コタ・キナバル参加記

宮本誠一 / JE3BEQ

今年のSEANETコンベンションは、東マレーシアのコタ・キナバル (ボルネオ・サバ州の州都)で11月20日から23日の4日間開催された。前回同地で開催されたのは2001年の第29回だそうで、2年前のSEANET大阪での開催地決定会議でオーストラリアのパスを凌いで開催地に決まった時人気スポットであることを知った。海外は北米・ヨーロッパしか経験のなかった私にとって、6年前のSEANETコンベンション参加から赤道付近のいわゆる熱帯の国々を訪れるチャンスに恵まれることになったが、今回も胸をときめかせてボルネオのトロピカル体験に出かけた。



9M4SEAを運用する  
JE3BEQ



SEANETブラザーズ JE3BEQ, HL1KDW, 9M2KN, HS1XIM

クアラルンプール空港着陸前に雨とのアナウンスがあった。成層圏から高度を下げて行く時部厚く途切れのない雲の層に突入し、その壮大感と何時それから脱出できるのか不安を感じながら機窓から眺めていた。途中突然雲の層が切れたと思ったら45度の角度で別の航空機が下の方で交差しようと突っ込んでくるのが見える。そしてまた下の雲の層に突っ込んでいった。一体見えない空間で2基の航空機はどのように交差するのであるかと気をもんでいたら、夕闇の雨に光るクアラルンプール空港に無事着陸していた。後で分かったことであるが現地は大雨に見舞われており、成田から直行便で来た人たちは着陸地変更等で大変だったそうである。乗継便でコタ・キナバル空港に到着したのは夜11時近くであったが、今回のコンベンションの責任者であるジェームスさん (9M6TW)とクリスさん (9M6DJC)が迎えに来てくれていて懐かしい再会を果たした後、ジェームスの息子さんの (9W6TWJ文字通!ジュニアコールサイン)の運転でSEANETの会場でもあるプロムナードホテルに送って頂いた。



SEANET旗を手にするHL1KDW



上海チームのプレゼンテーション

今回は、親友のポンワット(HS1XIM)が直前に参加することにしたので...とホテルの同宿を求めてきた。彼のことは柴又の寅さんのような人」と以前のSEANET参加記でご紹介したが、彼とは自他共に認めるSEANET兄弟である。私には無呼吸症候群の持病があるので、昼は眠たく逆に夜は眠れない悩みがある。従って人の鼾を聞いて自分が寝むれるかどうか不安があったが、見事に的中し彼の豪快な鼾のお陰で寝不足になった。そんな私を気遣って、彼は私の枕の下に毎晩クリスタルのプレートを入れた。何でも水や血流を浄化 促進する作用があるという その商品パンフレットも見たが、私には信じられなかった。しかしその気持ちと同宿中に見せた彼の思いやりに、SEANET兄弟の絆がまた強くなった。



開催関係者に助言する9M2KN



周辺探索中のHS1XIM、HL1KDW、JA3AER

懐かしいメンバーに新しく参加してきたメンバーを加えて、観光、地元の歓迎会と伝統舞踊の鑑賞、恒例のガラパーティーと盛り沢山の楽しいプログラムが連日連夜続いた。

最終日のセミナーで次回 (SEANET2009) の開催地ソウルにペナントが引き継がれた。2004年のバンコックコンベンションで次の開催地のバンガロールにバドタッチするセレモニーのとき、コミッティーの責任者レイさん (HS0ZDZ) の突然の病氣不在でSEANET旗の引き継ぎが省略された経緯があったが、旗そのものも行方不明になったと聞いていた。翌年のバンガロールコンベンションでは俄か作りだのSEANET旗が用意されて、2006年の大阪コンベンション、そして2007年のランパン (タイ)コンベンションへと引き継がれていった。その旗は、昨年ランパンから今回のコタ・キナバルに引き継がれるときに替っていた。私は今回韓国のチャエさん (HL1KDW) が受け取った絹の光沢をもつ掛け軸装丁のそのSEANET旗を実際に手にして、今後もこのフラグの下でSEANETスピリットが伝承されていくであろうと確信した。

次期開催地のソウルにペナントが渡った後、次々期開催地 (SEANET2010) が中国の上海に決まった。振り返ってみると我々の大阪コンベンションもチャエさんのソウルコンベンションも、その招致準備の開始は期を同じくして2003年のジョホール・バル (マレーシア) に遡る。また上海コンベンションの招致準備は大阪コンベンションに端を発している。初めて開催する人たちのSEANETに対する熱き思いが伝わってきたコンベンションでもあった。

最終日のセミナーが終わって夫々が別れの挨拶を交わそうとしていた時、ドクター・ケンさん (9M2KN) がみんなを呼び止め、ゴッドフリーさん (9M6GY) のSEANETの記録、伝承、宣伝に関するこれまでの継続した努力に対して、改めて賞賛の言葉を贈って労った。コンベンションを締め括る絶妙のタイミングであった。そのあと次期、次々期開催のメンバーを集めて丁寧に助言を与えていた。その時そばにいたのでその内容が聞こえてきたが、36回の長きに渡って幾多の局面を乗り越えながら続いてきたSEANETコンベンションが今後も継続し発展するように、熱き思いの主催者達にSEANETスピリットを説いていた。

最後に今回のコンベンションを企画・実行・協力されたすべての方々に、心からお礼を申し上げます。

P/S

翌日帰途につく前チャエさんと私は、ゴッドフリーさんの奥さんのステラさん (9M6JY) にコタ・キナバルをさらに案内して頂いた。その時立ち寄って見学した彼の工場をご紹介します。



僕の奥さんなのにと嘆くYU7SCとYU70IAと9M2KNの再会



9M6GWの工場見学 HL1KDW、9M6JY、9M6GY



9M6GWの工場では建造中のクルーザー

# 大阪国際交流センター・ラジオクラブ

Osaka i-House Radio Club

ji3zag@ji3zag.net

**2009 関西ハムシンポジウム in 尼崎**  
 JARL大阪府支部・兵庫県支部共催 開催される

JA3AOP/  
杉山 暁 記

さる、1月18日(日) 尼崎リサーチ・インキュベーションセンターにおいて 2009関西ハムシンポジウムが開催されました。  
[http://www.jarl.com/hyogo/ham\\_sympo/ham\\_sympo2009/2009\\_r.htm](http://www.jarl.com/hyogo/ham_sympo/ham_sympo2009/2009_r.htm)

当日は生憎の雨模様でしたが屋外展示も含めてにぎやかに開催されました。  
釣竿アンテナ、衛星通信、衛星通信まいど1号、ハムログでコンテスト参加、CW電鍵製作、LoTWによるDXCC申請、昔を語ろう屋外運用、のシンポジウムのほかジャンク交換会、新年アイボールミーティング、大抽選会が開催されました。  
当クラブのJA3AA, JA3IVU, JH3EDG, JP3AZA の皆さんとアイボールミーティングできました。



<昔を語ろう>



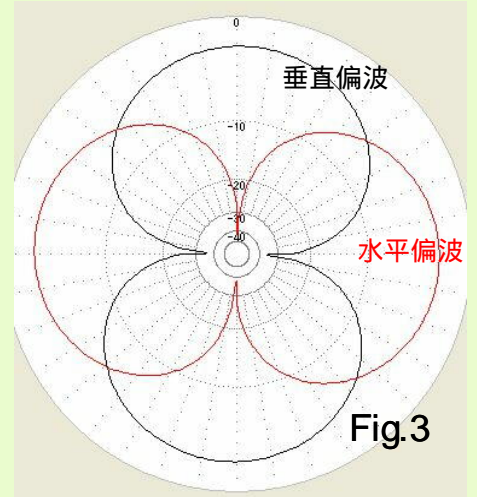
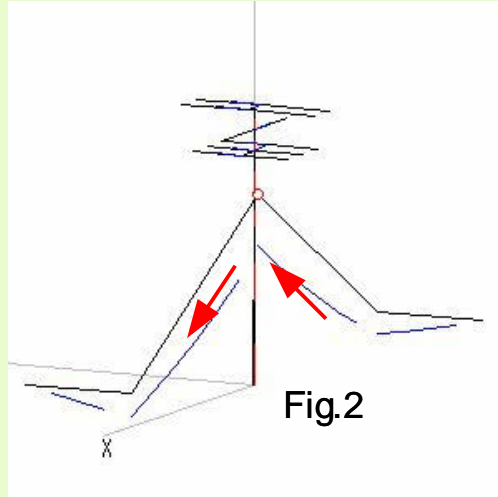
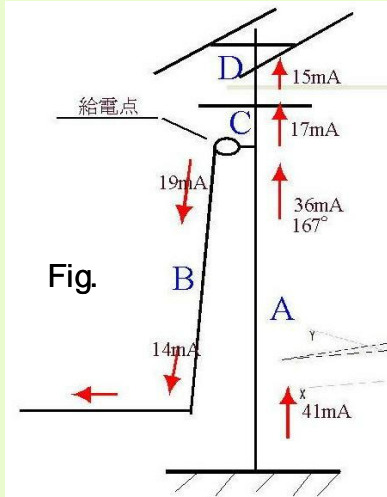
**J13ZAG-NL**      投稿歓迎！！      原稿や写真をお寄せください！！

# 160mバンド・逆Vダイポールドライブ・タワーアンテナの整合

JA3AOP / 杉山 暁

J13ZAG-NLの2008年2月号、3月号4月号に160mバンド用のスローパーアンテナについて、JA3USA/ 島本さんと、JH3AEF/ 東條さんとJA3AOP/ 杉山 の記事があいついで掲載されました。これらの情報をもとにこれまでのタワー直接ドライブ方式 (Fig. 1)を今年の正月に逆Vダイポールドライブ式に改造しました。この機会に1.82MHzと1.9MHzの切換方法や給電点インピーダンスを50 に近づける方法などをMMANAを使って検討してみました。

まずFig.2のような逆Vダイポールアンテナを考えます。給電点を18mにセットしてアンテナの動作を調べました。このアンテナでは2本のワイヤーエレメントはタワーには対称の位置にあり、タワーへの誘導は逆相で同じ大きさなのでタワーへの誘導はほとんど発生しなく、逆Vダイポールアンテナとして動作します。水平面指向性はFig.3のように垂直偏波と水平偏波が直角方向に放射されます。垂直面指向性は真上にピークがあり、共振インピーダンスも10数 と低く放射効率は良くありません。



次に、このアンテナの一方のエレメントをタワーの根本近くに引き寄せてきます。タワーへの両方のエレメントからの誘導はアンバランスとなり、タワーにも高周波電流が流れます。片方のエレメントをタワーの中心から5mまで引き寄せた状態をFig.4に示します。なお水平部のエレメントの高さは地上3mです。

この時の指向性はFig.5です。水平偏波の成分は減り、垂直アンテナとしての性質が強くなってきます。長く伸ばした傾斜エレメントの方向への指向性が現れてきます。垂直面指向性も35度と低くなってきます。さらに右側エレメントをタワーに引き寄せて、タワー中心から1.6mまで近づけると  
 共振周波数 : 1.825MHz z  
 共振インピーダンス : 47.5  
 SWR: 1.05  
 となりました。整合回路なしで50 の同軸ケーブルで給電できます。指向性はFig.6に示します。垂直面指向性は仰角28度とさらに下がりました。指向性になりました。

共振周波数 : 1.825MHz  
 共振インピーダンス : 19

Fig.2から右側エレメントを手繰り寄せると共振点が上昇するので右側エレメントを伸ばして調整した

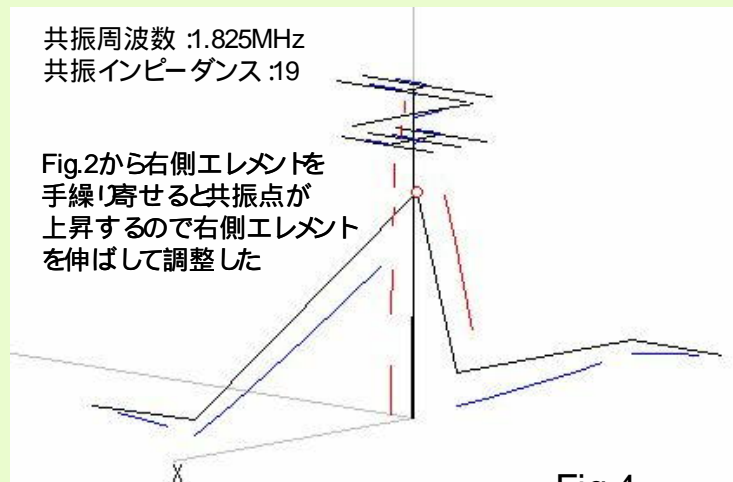


Fig.4

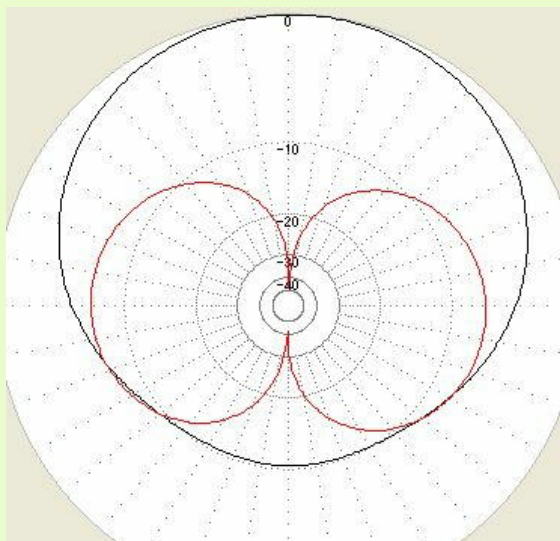
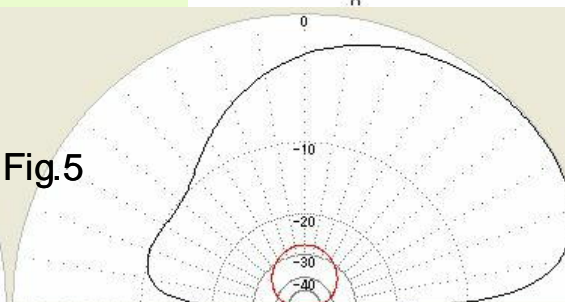
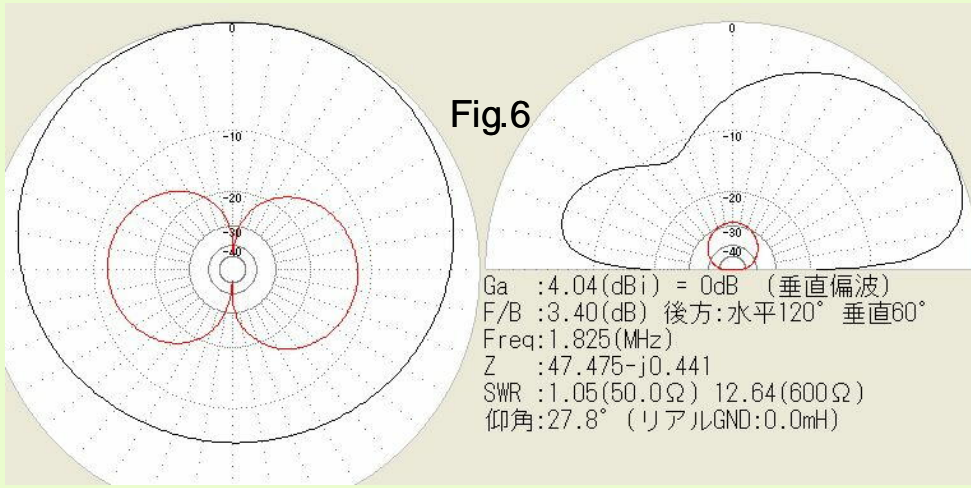


Fig.5



Ga : 5.07 (dBi) = 0dB (垂直偏波)  
 F/B : 4.75 (dB) 後方: 水平120° 垂直60°  
 Freq: 1.825 (MHz)  
 Z : 18.683-j0.212  
 SWR : 2.68 (50.0Ω) 32.11 (600Ω)  
 仰角: 34.8° (リアルGND: 0.0mH)



1.825MHzに対してはまずまずのアンテナを見つけることが出来ました。このアンテナを出来だけ簡単な変更で1.910MHzに出来ないか検討しました。  
 前頁のFig.6のアンテナの右側エレメントの水平部を先端から切り詰めて1.91MHzに共振させると共振インピーダンスは33程度に下がります。SWRも1.5に上昇します。

これまでの検討ではスロープ側のエレメントは逆Vダイポールのときに決めた長さのままでした。試しにスロープ側を2.2m延ばし、反対エレメントの手繰り寄せもタワー中心から1.6mまで近づけていたのを1.7mに戻してみました。反対側のエレメントを縮小して1.825MHzに共振させると共振インピーダンスは52.5、SWR=1.05と良い結果が得られました。  
 この状態から右側エレメントの長さだけをカットして1.9MHzに共振させると共振インピーダンスは39、SWR=1.27と整合回路なしで送受信機と接続できる状態が実現できました。160mバンドのアンテナは思うように展開できるスペースがありませんがこの検討で得たことは「タワーの根元に引き下ろすワイヤーはタワーに近づけるとインピーダンスが上昇する」「スローパー側のエレメント長を長くすれば共振インピーダンスが上昇する」「スローパー方向に指向性が生じる」「1.825MHzと1.910MHzの切替は引き下ろし側のエレメント長で調整できる」以上の特徴を利用すればアンテナの共振およびインピーダンス調整が容易に行える。  
 以上、ご参考になれば幸いです。

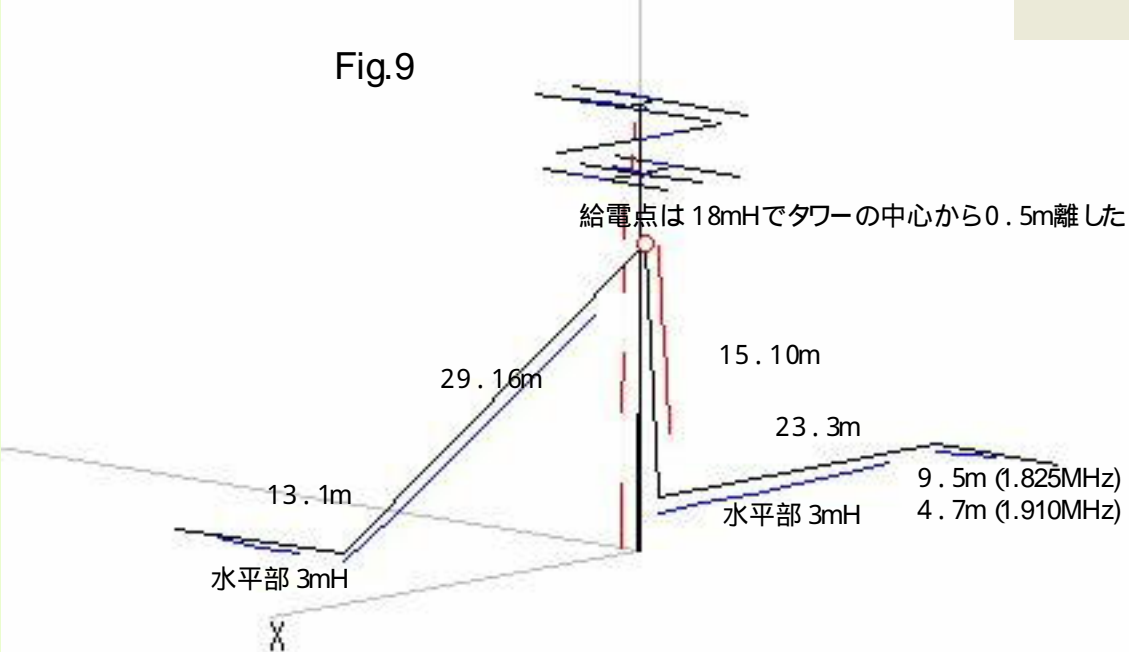
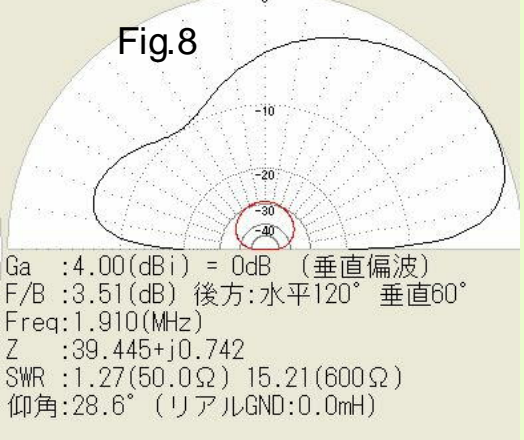
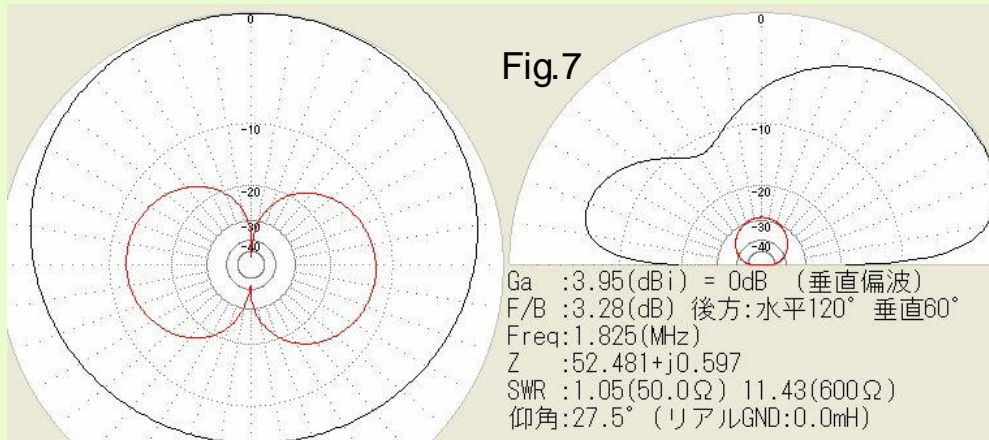


Fig.7に1.825MHzでの特性を  
 Fig.8に1.910MHzでの特性を  
 Fig.9に最終の寸法を示します。

タワーは次のように近似しました。

高さ	直径
0~ 8m	400mm
8~ 15m	300mm
15~ 18m	200mm
18m~ 22m	160mm
22m~ 26m	60mm

- 上部アンテナ
- 1) 2エレ (26m高)  
 ブーム3m エレメント14m
  - 2) ローターDP (24m高)  
 エレメント 14m
  - 3) 3エレ (22m高)  
 ブーム 6m エレメント 10m